

# 4 道路整備

～歩行者と車が共存できる交通環境のまち

## <A 基本計画の目標>

都市計画道路については、都市拠点の整備事業や鎌倉市交通マスタープラン等との整合を図るとともに、都市防災も考慮した道路網について検討し、整備にあたっては、優先順位の高い順から環境に留意し、効果的かつ効率的に進めます。

生活道路については、歩行者等の安全確保を重視した交通環境の向上をめざし、道路整備を図ります。

道路整備の実施に際しては、バリアフリー化や都市景観を考慮した整備に努めます。

道路管理の情報管理システムの構築を図ります。

## <B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H20	H21	H22	H23	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	14.4 %	15.2 %	13.3 %	14.3 %	12.7 %	↓

## <C 目標達成に向けた23年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

### 【まちづくり景観部】

「都市計画道路の見直しの基本的考え方」に基づき、見直し対象路線を選定し、個別路線ごとに必要性の検証を行った後、将来交通需要推計を実施しました。

自己評価



### 【都市整備部】

設置済みの街路照明灯の維持・修繕と、省エネ対策としてCO2 排出量や電気消費量が多い水銀灯型街路照明灯の一部(92基)を省エネ型に灯具交換を行いました。



歩行者等の安全確保のため、今小路通り(水道局～寿福寺、L=491m)について歩行空間のカラー化を行いました。

バリアフリー化の整備として、歩道段差の切下げを行いました。(大船四丁目1番先他、29箇所)



前年度当初目標に対し、◎=80%以上○=50%以上△=30%以上×=30%未満

## <D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

### 【まちづくり景観部】

総合的な交通体系の整備について、行政、住民、交通事業者を含めた実効性のある検討(委員会の設置等)が望まれる。



行政・市民・交通事業者・学識経験者等で構成された鎌倉市交通計画検討委員会において地区交通計画の見直しを含め調査研究を予定しています。

### 【都市整備部】

歩道整備総延長距離が平成19年度以降、一向に伸びていない。



市内の道路の多くは沿道に家屋が密集し、市街地が形成されているため、新たな歩道設置に伴う既存道路の骨格を変更することは難しい状況です。  
 今後は、歩行空間のカラー化、歩道段差の切下げのほか、ガードレールの設置などの交通安全施設の整備を充実し、歩行者の安全確保に努めていきます。

市民が感じている歩道・道路整備の達成状況が低迷したままである。

市内の道路は、舗装後相当年数が経過しており、市民からの舗装改修要望が毎年多く寄せられています。  
 平成23年度に行った大規模住宅地や生活道路についての舗装状態調査に基づき、修繕計画を策定し、計画的な道路修繕に努めていきます。

大幅な道路骨格が変更できないなか、歩きやすく事故の起こりにくい道路整備をどうすすめるかが課題である。「歩きやすく事故の起こりにくい道路整備」の実現に向けて、事業課と連携し研究を進めてほしい。

市内の道路の断面構成を変更することは難しいことから、歩きやすく事故の起こりにくい道路整備として、移動円滑化基本構想に基づく特定経路のバリアフリー化の整備を行うとともに、あんしん歩行エリアの整備を進め、誰もが安全で安心できる歩行空間づくりを進めていきます。

## <E 23年度未達成事業の課題・問題点など>

### 【まちづくり景観部】

計画に沿って着実に事業を進めています。(平成23年度において、主たる課題は特にありません。)

※未達成の理由<支障となった理由>

### 【都市整備部】

道路の維持修繕に関する市民要望は、舗装の打ち換え、歩道の整備やガードレールの設置、カラー舗装による歩行空間の確保、排水施設の整備・補修、階段等の整備等多岐に渡り、また要望件数も多い中、事業費が不足し実施が思うように進みませんでした。

※未達成の理由<支障となった理由>

## <F 今後の展開(取組方針)>

### 【まちづくり景観部】

都市計画道路見直しの方向性を整理した後、パブリックコメント等の手法を利用して、市民が抱えている問題や路線に対する意見等を把握するとともに、専門的見地から都市計画審議会の意見・助言を受け、見直しの方向性(素案)を確定していきます。その後、都市計画変更図書の作成業務を進め、平成25年度を目標に第1回目の見直しを行っていきます。

### 【都市整備部】

町内会、自治会からの要望に基づき、省エネ型街路照明灯を設置するとともに、適正な維持管理を行います。

実施計画に位置づけられた、歩道整備等について、実施可能な手法の検討を行っていきます。  
歩道段差の解消、特定道路の整備の充実、交差点の改良等の事業を進めていきます。  
市民からの道路の補修要望に迅速に対応するとともに、平成23年度に実施した大規模住宅地や生活道路の舗装状態調査に基づき、修繕計画を策定し、計画的な改修を行っていきます。

## <G 実績指標:事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H20	H21	H22	H23	H22年度 目標値	H27年度 目標値
歩道整備延長距離 (+)	1年間の歩道整備総延長距離(歩道幅員2メートル以上)	22.2 km	22.4 km	22.4 km	22.4 km	22.4 km	24 km	26 km
都市計画道路整備率(+)	都市計画道路計画延長のうち整備済み区間の割合	33.4 %	33.0 %	33.0 %	33.0 %	33.0 %	34 %	35 %
歩道・道路整備の達成状況(+)	日常利用している歩道や道路の整備が、進んできたと感じる市民の割合	14.3 %	17.3 %	14.4 %	12.5 %	10.7 %	24 %	44 %

## <H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	631,042千円	560,511千円	894,833千円	547,851千円				
	(国・県)	17,485千円	47,606千円	173,506千円	76,342千円				
	(負担金等)	0千円	0千円	0千円	0千円				
	(一般財源)	613,557千円	512,905千円	721,327千円	471,509千円				
	人員配置数	29.5人	29.0人	29.7人	30.8人				
	人件費 (B)	270,108千円	265,218千円	259,840千円	271,081千円				
	総事業費(A+B)	901,150千円	825,729千円	1,154,673千円	818,932千円				
	対前年比		91.6%	139.8%	70.9%				

## 鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



### 評価できるところ

- ・地域の合意形成や用地取得という難しい問題があるにもかかわらず、歩道拡張や歩道のカラー化など、歩行者を守る取組を一步ずつ進めている。
- ・道路の維持修繕に加え、市内各地で見かけるようになった歩行空間のカラー化、バリアフリー化など生活道路の今後の展開に期待する。
- ・道路の痛みを初期段階で直して、できる限り長く持たせる予防型の維持管理をするために、市内の幹線道路と大規模住宅地の舗装状態を客観的に評価し、優先順位をつけて舗装を行う取組を行っている。
- ・道路が痛む前に徴候が現れたら対策しようという姿勢は好感が持てた。
- ・市民にとって必要な道路の整備を着実に進めてきている。
- ・市道については地道に改善活動が行われている。
- ・できることから整備を進めている。
- ・今小路や由比ガ浜通り下馬周辺をはじめ、少しずつではあるが歩道拡張や歩道と車道の分離が進んでいる。
- ・今小路通りの整備を評価する。
- ・大船駅西口駅前歩行者デッキができあがり歩行者にとっては利便性が増した。



### 課題・提言

- ・市民満足度及び歩道・道路整備の達成度の実数値が総体として向上していないことは残念である。市民満足度の停滞については、毎年のこととしてややあきらめて受けておられる感があるが、限られたコストを効率的に使い、歩行者共存と生活道路の改善が進められることが必要である。
- ・このセクションにおける市民への貢献がまったく市民に理解される方法で示されていない。市民にしっかりと、事業の成果を目で見てわかる形で伝えるのも義務である。
- ・国道や県道等、市の管轄外の道路環境の整備についての調整は進められていない。簡易な改善で解決できる場所については、国県の管轄にこだわらず進める姿勢が必要である。
- ・住居の周りの道路も車の通行があり、人と車の共存は課題である。道路整備の独自の展望を市民にも示して、今後の施策に生かして頂きたい。
- ・将来交通需要推計を実施したと記述されているが、世界遺産登録の影響を組み込むべきである。
- ・国・県の補助が約1.7億と非常に少ない。今年も市民満足度は最下位。国・県・市の道路の問題点を明確に管理し、予算化をお願いしたい。

この分野のめざすべきまちの姿に向けた平成23年度の取組は、**良好であった。**